

第2節 G20

I 沿革

2008年9月のリーマン・ショックに端を発する金融危機をきっかけに、危機対応や規制・監督の改革等について、G7を超えた新興国を含む幅広いメンバーで議論するため、首脳レベルによる会合として同年11月に第1回G20首脳会合（ワシントン・サミット）が開催された。以来、G20は、「国際経済協調の第一のフォーラム」として定例化されている。近年では、年1回の首脳会合（サミット）と、年数回の財務大臣・中央銀行総裁会議が開催され、幅広い政策課題について議論が行われている。2023年はインド、2024年はブラジル、2025年は南アフリカ、2026年はアメリカが議長国を務める。

II 主な議論

金融関連では、暗号資産及びグローバル・ステーブルコインへの金融規制監督上の対応、サステナブルファイナンス、NBF1の強靱性強化、クロスボーダー送金の改善、金融包摂等が主要な議題となっている。

インド議長下で開催された2023年7月のG20財務大臣・中央銀行総裁会議では、成果文書及び議長総括が発出され、金融関連の主にサステナブルファイナンス、暗号資産、NBF1、クロスボーダー送金、金融包摂に関する事項が盛り込まれた。

2023年9月にはG20ニューデリー・サミットが開催され、首脳宣言が発出された。金融関連では、主に金融包摂、サステナブルファイナンス、暗号資産、NBF1、クロスボーダー送金に関する合意事項が盛り込まれた。

2023年10月にはG20財務大臣・中央銀行総裁会議が開催され、声明が発出された。金融関連の主な合意事項は以下の通り。

- 我々はまた、自発的で柔軟性のあるG20サステナブル・ファイナンス・ロードマップの実施における、G20メンバー、国際機関、ネットワーク及びイニシアティブ、並びに民間部門による行動を追跡する進捗報告書を歓迎し、トランジション・ファイナンスの枠組の実施等を含む、ロードマップで推奨されたサステナブル・ファイナンスを拡大する行動を推進するための更なる努力を求める。
- 我々は、G20ニューデリー宣言において首脳が歓迎したIMF及びFSBの統合報告書を効果的に取りまとめたIMF及びFSBに謝意を表す。我々は、統合報告書において提案されたロードマップを暗号資産に関するG20ロードマップとして採択する。この詳細かつ行動志向のロードマップは、マクロ経済及び金融の安定という我々の共通の目標を達成し、暗号資産のための包括的な政策枠組の、効果的で、柔軟性のある、調和された実施を確保するために必要不可欠である。我々は、政策枠組の実施、G20法域を超えたアウトリーチ、グローバルな協調・協力・情報共有、及びデータギャップへの対処を含む、G20ロードマップの迅速かつ調和された実施を求める。我々は、IMF及びFSBに対し、暗号資産に関す

る G20 ロードマップの実施の進捗について、定期的かつ体系的な更新を提供することを求める。我々は、暗号資産に関する進行中の作業及び FATF 基準のグローバルな実施を支持する。

- 我々は、クロスボーダー送金の改善に向けた G20 ロードマップの継続的な実施を支持し、クロスボーダー送金ロードマップに関する第 3 回年次進捗報告書及び目標を達成するための重要なパフォーマンス指標を含む最初の年次監視報告書を歓迎する。(中略) 我々はまた、一貫性のある、比較可能な気候関連財務情報開示の実現に関する FSB の最新の進捗報告書を歓迎する。我々は、ノンバンク金融仲介 (NBFI) において進展しつつある動向を監視しつつ、システミックな観点から NBFI の脆弱性に対処しその強靱性を向上するための、FSB 及び SSBs の作業を引き続き強く支持する。

ブラジル議長下で開催された 2024 年 2 月の G20 財務大臣・中央銀行総裁会議では、議長総括が発出され、金融関連の主に NBFI、暗号資産、クロスボーダー送金に関する事項が盛り込まれた。

2024 年 4 月に開催された G20 財務大臣・中央銀行総裁会議では、サステナブルファイナンス等について議論した。